

週 報



奉仕しよう みんなの  
人生を豊かにするために



「ロータリーの原点に戻る」

例会日 毎週水曜日 12:30～ 例会場 ホテルシーズン日南  
住所 日南市園田3-11-1 TEL 0987-22-5151 FAX 0987-22-9588

会長 豊田裕康

会員増強・新クラブ結成推進月間

第3275回例会	No.05	2021. 08. 11	雨
点鐘・国歌・ロータリーソング	12時30分		「我等の生業」
四つのテスト	甲斐信之 君		
例会行事	結婚誕生者卓話 (短縮例会)		

会長時間

国際ロータリーの重点分野の一つである平和構築と紛争予防は、2月が特別月間とされ各クラブにおいて重点的に活動することが求められております。しかしながら、日本においては、先週の広島での平和記念式典より15日の全国戦没者追悼式までの10日間が、平和関連行事が行われ、テレビでも特番が組まれており、平和を考えるにあたってふさわしい期間と言えます。

今年は戦後76年になります。実は、昭和20年当時の日本人にとって、現在の日本人にとっての昭和20年と同じ時間的感覚で捉えられる出来事があります。それは、明治維新で、昭和20年は明治維新から77年となり、現在の日本人にとっての敗戦時とほぼ同じ時間的長さとなります。ですから、昭和20年は、本物のサムライを知っている世代が残る最後の時代ということになります。当時と現在は、明治維新と太平洋戦争の敗戦を実体験として語れる人々がまだ存在するが、おそらくあと数年で実体験として語れる人がいなくなるであろうという状態ということで共通します。

終戦後に語られる話は、特に敗戦時は雄弁に語る人ほど自己弁護に終始し他人に責任を転嫁する傾向があり、本当に責任を痛感している政治家・軍人は一切語らずに亡くなっているため、今となっては政策判断や軍事戦略の判断がどのようになされたのかの検証が困難となっているケースがあります。本当に辛い経験をされた方は亡くなる直前まで戦争体験を一切話さずにおられるケースが多く、貴重な戦争体験が失われる可能性があり、今、戦争体験を記録に残すという作業が全国で行われております。後世に政策判断や軍事戦略を検証する際、事実がねじ曲げられていたり、資料が少ないと検証の制度が下がってしまうため、正確な事実の収集は重要で、この意味でも昨今の日本の行政府におけるずさんな公文書保管の現状は大変嘆かわしいと思います。

さて、日本においては、終戦の日は8月15日となっております。太平洋戦争の終結により、1931年の満州事変から始まり日本の国力の全てをつぎ込んだ対外戦争（日本でいう15年戦争、中国では14年抗戦といわれる）が終了しました。

太平洋戦争の終結日を8月15日としているのは日本だけで、諸外国では日本が降伏文書に署名した9月2日又は翌日の3日を対日戦勝記念日としており、旧同盟諸国でも終戦は9月であると教育しているとのことです。

8月15日が日本において終戦の日とされる理由ですが、正式に終戦が決定したのが14日の御前会議であるものの、実際に全国民及び全戦闘員に対して終戦と戦闘行為の停止が命ぜられたのが15日の玉音放送であることと、15日が月遅れのお盆であり、亡くなられた御霊の追悼に適しているということがあったようです。玉音放送では、14日付けで天皇以下全閣僚が署名捺印した終戦の詔書をその日のうちに録音し、15日の正午にラジオ放送がされました。

15日には日本武道館において全国戦没者追悼式が行われますが、1963年から行われており、1982年の鈴木内閣において、先の大戦において亡くなられた方々を追悼し平和を祈念するための日として、正式に8月15日が「戦没者を追悼し平和を祈念する日」と定められて現在に至っております。

ここにいらっしゃる方で玉音放送を聞かれた方はいないと思いますが、音が悪くて内容がよく分からなかったという方が多いようです。当時の玉音放送を聞いた方の日記をいくつかご紹介したいと思います。自ら書き留めた日記ですので、正直な心情を読み取れると思います。

まず、久留米市で旧姓中学に通っていた当時14歳の男性の日記によると「13時頃だったか、山本君が息をきらしてきて、「日本は無条件降伏したげな」といった。僕は、おたまたまげてしまって、物もいえなかったが、気を落ち着けてよく聞いたら、13時にラジオがいったそうだ。そして、はじめに、天皇陛下御自ら御放送遊ばされたそうだ。僕は、それは敵が沖縄からでも、デマ放送をしているのだろうと思った」と、終戦が信じられない心情が読み取れます。

また、埼玉県国民学校6年生の女子生徒の8月15日からしばらくたって振り返った日記には、「お昼の時ラジオのニュースで重大放送がありました、熊谷付近は焼けてしまったので、電気は通じていませんでしたのでラジオを聞く事ができません。その日の夕方「日本が負けた」というのを聞きました。「政府は国民にうそをいって、アメリカのほうがたくさん軍艦を沈めたのに、日本の戦果のほうを大きくしたり」して、また「東條は戦争を始めるとき、内閣としていばっていました。終戦になって直ちに戦争犯罪人となりました」「今は東條の憎らしい事が思い出されて急にくやしくなる事もあります」と率直な気持ちが書かれ、正確な情報が敗戦後速やかに流れると共に、日本の総力を挙げて戦った戦争に敗れたことの責任を誰かに追わせたいという心情も読み取れるのではないかと思います。ちなみに、この女の子が怒りを向けている開戦時の東條内閣構成員ですが、八田鉄道大臣を除いて全てA級戦犯容疑者として逮捕指令が出て、東條首相兼陸軍大臣が絞首刑、小泉厚生大臣及び橋田文部大臣は逮捕前に自決、鈴木貞一企画院総裁国務大臣、島田海軍大臣、賀屋興宣大蔵大臣が終身禁固刑、東郷外務大臣は禁固20年、岸信介商工大臣、井野農林大臣、岩村司法大臣、寺島通信大臣の4名は昭和23年に釈放となりました。一人の女の子ですら開戦時の東條内閣への恨みを日記に書くほどですから、その他一般国民の中でも同様の感情があったのではないかと思います。これは、勝者の側も誰かに責任を負わせないと政治的に決着がつけられないですし、日本の国内世論を一定の人物が悪かったという方向に誘導することで占領統治を円滑に進めるというGHQの意図があったものと思われます。

次に、香川県高松市の小学校4年生の少年が書いた日記には、「きのう回覧板が回ってきて、今日の正午にラジオで重大放送があるのでかならず聞くようにと書いてあった。きのうお父さんは、「いよいよ本土決戦になるから、最後の一人になるまで戦え」という天皇陛下のお言葉が伝えられるのだろう」とおっしゃった。昼前に寮の中庭にラジオを用意して、みんながその前に集まった。ラジオの具合が悪く、おじさんがいろいろやっているが、ガーガーと雑音ばかりする。そのうち男の人が甲高い声で難しいことを言っているのが聞こえてきた（たぶん甲高い声の男の人というのは天皇陛下のこと）。放送が終わっても、ぼくには何のことか分からなかった。寮のおじさんが、「戦争が終わったんだ。日本は負けたんだ。今のは天皇陛下のお声だ。おいたわしい」といって、目から涙をこぼした。その時、お母さんが小さな声で、「ああ、よかった」と言った。」と書かれています。この男の子のお母さんが小さな声で述べた「ああ、よかった」というのが、多くの国民のいつわらざる心でなかったかと思えます。この少年は高松空襲で罹災しているのですが、一ヶ月後の9月14日の日記には、学校で野球クラブができ、父親が闇市で野球のミットを買ってきてくれたことが「夢のようだ」と書いたのち、「野球というのは、なかなかおもしろいスポーツだ。戦争が終わってから、毎日が楽しくて仕方ない」と正直な気持ちを書き綴っています。終戦から1か月しかたっておらず空襲で焼き出されて不自由な生活であっても、自由にものが言えて好きなことができるというのがいかに大切かが分かります。

最後に、終戦後、まだ連合国による天皇の処遇が定まっていなかった段階で、昭和天皇が当時栃木県日光市に疎開していた皇太子殿下（現上皇陛下）にあてて、東宮大夫兼東宮侍従長の穂積重遠に持参させた手紙を読みしたいと思います。

「手紙をありがたう。しつかりした精神をもつて 元気で居ることを聞いて 喜んで居ます

国家は多事であるが 私は丈夫で居るから安心してください

今度のやうな決心をしなければならぬ事情を早く話せばよかつたけれど 先生とあまりにちがつたことをいふことになるので ひかへて居つたことを ゆるしてくれ 敗因について一言いはしてくれ

我が国人が あまりに皇国を信じ過ぎて 英米をあなどつたことである

我が軍人は 精神に重きをおきすぎて 科学を忘れたことである

明治天皇の時には 山県 大山 山本等の如き陸海軍の名将があつたが 今度の時は あたかも第一次世界大戦の独国の如く 軍人がバツコして大局を考へず 進むを知つて 退くを知らなかつたからです

戦争をつづければ 三種神器を守ることも出来ず 国民をも殺さなければならなくなつたので 涙をのんで 国民の種をのこすべくつとめたのである

穂積大夫は常識の高い人であるから わからない所があつたら きいてくれ  
寒くなるから 心体を大切に勉強なさい 9月9日 父より 明仁へ」

人間天皇としてのお姿のよく分かる手紙ではないかと思いますが、後世の人間だから言えることでしょうが、太平洋戦争開戦時にはすでに中国での泥沼の戦争が10年続いており、開戦時に先の手紙のような内容を陛下自ら軍人らにご指摘いただくことはできなかったのか、残念でなりません。

戦争は相手国の意思にも関わることでですので自国のみの努力でどうにでもなるものではありませんが、戦後76年の平和が今後も長く続くことを祈りたいと思います。

## 幹事報告

- 1) ロータリー日本100年史が届きました。

## スマイル

日高章太郎君 第1回目のガバナー補佐公式訪問を無事に済ませました。

## 例会行事

### 結婚誕生者卓話

#### 土屋昭次君 (8月誕生)



あと2週間で後期高齢者になります。最近体の言う事が効かなくなっている今日この頃です。ロータリーのメンバーでは5番目の年寄りになります。最近は終活の為、いらなくなった物を、クリーンセンターに捨てに行っています。

今後はボケないように、身の回りの整理をやっていきたいと思っています。

#### 菊池希樹君 (7月結婚)



結婚記念日のお祝いありがとうございます。いつのまにか28年目となりました。先日ドローンをAmazonで息子と共同購入しました。200g以下であれば免許はいらないとの事で199gのドローンを注文、二日後に届き、次の休みまで3日間帰宅後訓練と称して狭い中自宅のリビングで飛ばして練習をしていましたが、少し慣れてきた3日目に飲みながらやったのがいけなかったのか電灯の傘にぶつかり1メートル程墜落してしま

まい、烈火のごとく息子に叱られ、もう俺は操縦しないと宣言をしてしまい、それ以来操縦は自粛しております。

購入して最初の休日に家の前で息子の操縦するドローンを屋外での初フライト。上空100メートルまで一気に上昇。コントローラーに装着されたスマホに映し出された映像は100万円でチャーターしたヘリコプターから見る景色と何ら変わらず、日南市内が一望の大絶景でした。今回購入したドローンはYouTubeで見れますので興味のある方はごらんください。 <https://m.youtube.com/watch?v=yzNfaS5nPxk>

## 出席率報告

	会員数	出席免除	出席定数	HIC出席	MU	欠席	出席	出席率
今週	32	5	27	22	2	3	24	88.88%
出席免除	落丸、村上、清水、渡邊、山口							
先取MU	榎木田、飯干							
欠席	斉藤、斎藤、上原							

事務局〒887-0014 日南市岩崎3-4-2 Itten 堀川ビル2F 創客創人センター内 TEL0987-22-3363・FAX0987-22-3515

会長：豊田裕康 副会長：入中英雄 幹事：築瀬敦 雑誌会報広報委員長：河野通郎

雑誌会報広報委員会より

原稿は、[ocame@wing.ocn.ne.jp](mailto:ocame@wing.ocn.ne.jp)まで送信してください。